

都市の歴史的市街地の集住体における居住環境と環境認知の関係性 その2
 - 月島街区における環境認知の構成の変化について -

日大生産工(院) ○高野 祐太
 日大生産工(院) 千葉 勝仁
 日大生産工 大内 宏友

1. 研究の目的と背景

本稿は前稿を引きも続くものである。本研究では1996年から2011年までに月島の街区になされた物理的環境の変化が居住者の環境認知にどのような変化をもたらしたかについて分析・考察を行う。

2. 研究概要

2. 1. 調査対象地域

調査対象地域：月島1丁目15～27番地

2. 2. 調査期間・調査方法・調査内容

アンケート調査は以下の概要で行った。

■調査期間

平成7年1995年8月1～15日、平成8年6月18～7月2日、平成23年9月17・18日

■調査方法

アンケート調査は、月島1丁目の居住者を対象としている。居住者の認知領域を明らかにするために10歳以上を対象とし、悉皆調査を行い、それにより68サンプルの回答を得た。

2. 2 分析方法

本研究では、はじめに居住者に対して環境認知

アンケート調査を行い、月島1丁目に暮らす居住者の「近隣付き合いの範囲」、「日常生活の範囲」の認知領域の把握を行う。1996年の認知領域と2011年の認知領域を比較することにより、月島の街の物理的環境の変化が居住者の環境認知に与える影響を考察する。

3. 居住者の環境認知についての考察

圏域図示法*1)を用いた認知領域調査より、被験者の「近隣付き合いの範囲」と「日常生活の範囲」の認知領域を集計し、認知領域図を作成する。月島1丁目をまとめた認知領域図の分析を行った。

認知領域図のプロットは認知領域の構成要素*2)を表し、パーセンテージは各認知項目の領域を重ねた時、被験者の何%がその領域を認知しているかを表している(以降認知強度と呼ぶ)。表の%は認知度*3)を表している。認知領域図及び認知領域構成要素項目の順位表(属性別)から、居住者全体の認知領域の広がりとその構成要素について次のように分析する。

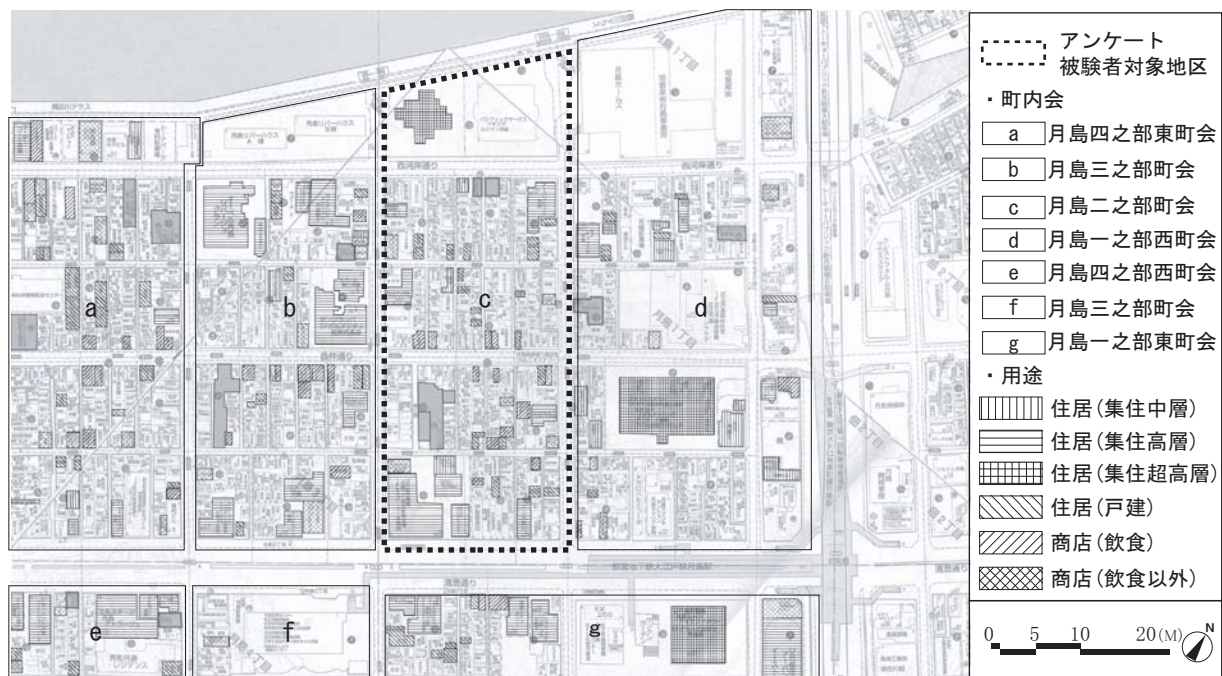
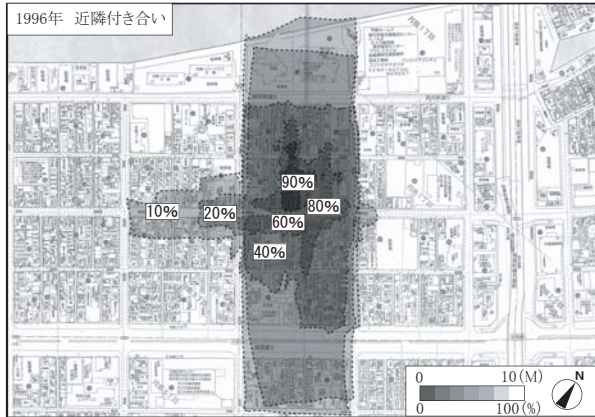


図1 1996年-2011年の間に建替・用途変更があった建物

Formulation of habitat and environmental recongnition relationships of historical downtown of city

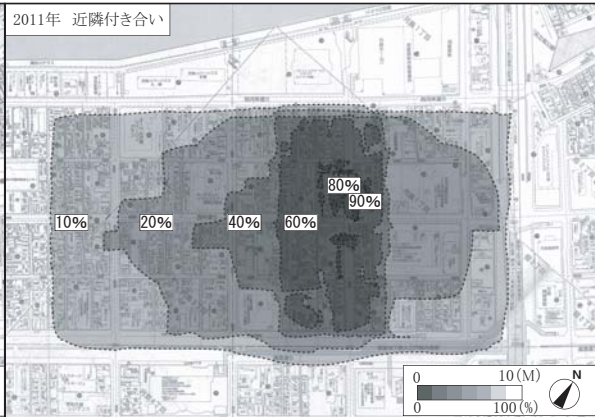
-About the physical environmental change in the Tsukishima blocks-

Katsuhito CHIBA, Yuta TAKANO, Hiroto OHUCHI



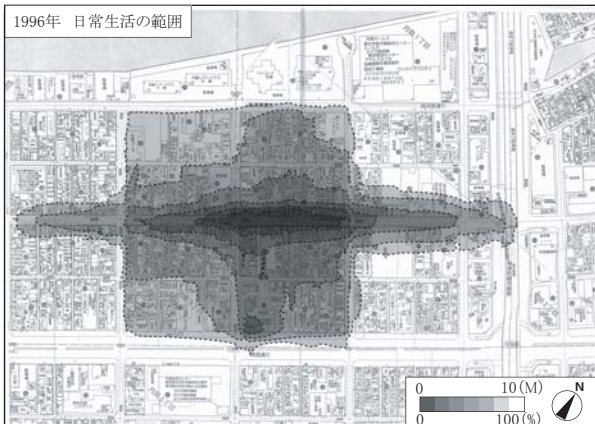
順位	項目	度数	%
1	その他	33	39.2
2	町内会	23	27.3
3	買い物	13	15.4
4	仕事	9	10.7
5	散歩	3	3.5
5	なし	3	3.5

図2 1996年「近隣付き合いの範囲」認知領域



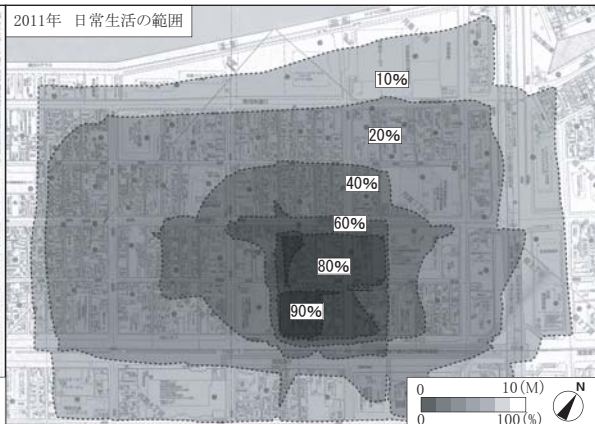
順位	項目	度数	%
1	町内会	42	48.2
2	その他	19	21.8
3	買い物	14	16
4	仕事	6	6.8
4	散歩	6	6.8

図3 2011年「近隣付き合いの範囲」認知領域



順位	項目	度数	%
1	買い物	56	64.3
2	町内会	12	13.7
3	仕事	8	9.1
4	散歩	7	8
5	なし	3	3.4
6	その他	1	1.1

図4 1996年「日常生活の範囲」認知領域



順位	項目	度数	%
1	買い物	59	49.5
2	散歩	30	25.2
3	町内会	15	12.6
4	仕事	10	8.4
5	その他	5	4.2
6	なし	0	0

図5 2011年「日常生活の範囲」認知領域

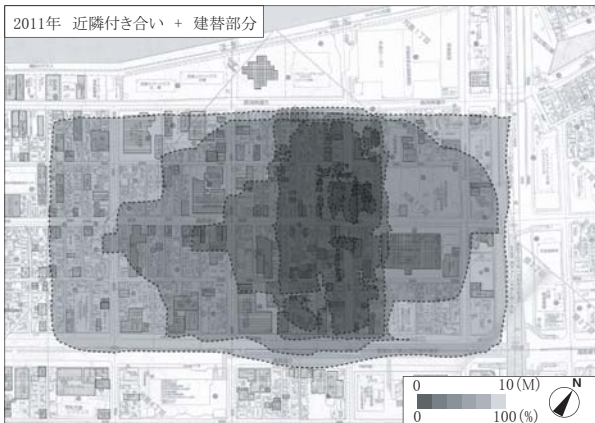


図6 2011年構成要素順位表「近隣付き合いの範囲」

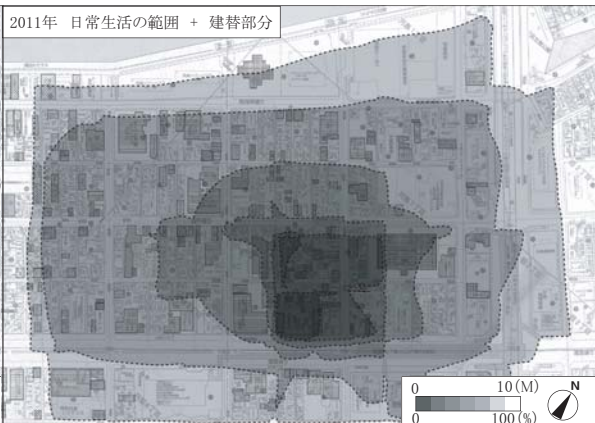


図7 2011年「日常生活の範囲」認知領域

■1996年、2011年の「近隣付き合いの範囲」の認知の比較(図2, 3, 6)

1996年と2011年の「近隣付き合いの範囲」の認知領域は2011年の方が広い範囲を認知している。1996年には晴海通りを越えた認知領域を持っていたが、2011年には大通りを越えた認知は少なくなっている。

つまり街区の更新によって、近隣付き合いの範囲は東西方向の認知を強めたが、南北方向の認知は晴海通りによって認知の広がりが止まっていることが分かる。その要因としてはg地域(図1)の開発によって集合住宅が建設されたことで新しい住民が増えたことも要因の一つと考えられる。

また、1996年時には町内会を越えた東西方向の近隣付き合いはなかったが、2011年には隣の町内会との近隣付き合いを認知している。構成要素項目の順位表での「その他」の項目が上位となっているが、「その他」項目の住民の特徴として、住民の居住街区、町内会以外に暮らす居住者との交流があるため、東西方向の認知領域の広がりが確認されている。

1996年では、町内会を東側に越えた認知はまれであったが、2011年では東側にも広い範囲で認知している住民が見られた。

■1996年、2011年の「日常生活の範囲」の認知の比較(図4, 5, 7)

1996年と2011年の認知領域を比較した時、2011年の認知領域の方が大きな範囲を把握しており、「日常生活の範囲」は晴海通りを越えた認知領域に移行した。この要因としては、地下鉄開通に伴う駅前開発と商店街が「もんじゃストリート」として観光地化されたことが考えられる(図1、表1、表2)。また、1996年、2011年の構成要素の項目順位表は共に「買い物」が最大となっているが、認知領域図を見ると買い物場所が変化したことが分かる。1996年は西仲商店街を対象としており、2011年は駅前や晴海通りを指している。西仲商店街の店舗の多くはもんじゃ屋に変わり、生活物資を揃える店舗が駅前や晴海通り沿いに配置されていることが要因と考えられる(図1、表1)。つまり、地域住民の買い物の拠点が商店街から開発部分に移行したことによる認知領域の拡大であると考えられる。構成要素項目の順位表において「仕事」の項目が下位であることから、地下鉄の利用者は地域住民のよりも観光客などの地域住民以外の人の方が多いと考えられる。

また、1996年と比較して「散歩」の項目が上位に上がってきている。

4. まとめ

本研究における、調査、分析による考察を以下

にまとめる。

①1996年の「近隣付き合いの範囲」、「日常生活の範囲」の両方の認知領域図において、西仲商店街に合わせて認知が広がる傾向を得ることができた。このことから、1996年の認知において西仲商店街が地域住民にとって身近な場所であったことが考えられる。

②月島の物理的環境の変化において、「近隣付き合いの範囲」、「日常生活の範囲」の両方の認知領域を拡大する結果になっているが、「近隣付き合い」の範囲拡大と「日常生活の範囲」の拡大とは比例関係にないと考えられる。

③月島の物理的環境の変化、地下鉄の開通と商店街の観光地化は住民の認知、特に地域住民の「日常生活の範囲」の認知に大きな影響を与えており、買い物の拠点を線的な認知(西仲商店街)から点的な認知(駅前のスーパーマーケットなど)に移行させたと考えられる。

④2011年の「近隣付き合いの範囲」の認知領域における東西方向の認知領域の広がりは、居住者の知人の居住場所に影響されている傾向が見られる。

今後の展開として居住者の環境認知を形成する変化の要因及び相互の関係性について考察する予定である。

※本研究の一部は科学研究費補助金 基盤研究(C)

20560590「集合住宅の集住体における児童をとりまく生命・育成環境の計画に関する研究」を得て行ったものである。

【謝辞】

本研究は大内研究室学部4年の吉田雄太君、鈴木飛羅君、加藤佑真君、渡辺準君、湯浅友絵さんの協力のもと調査・分析を行った。アンケートに協力して下さった月島の居住者の協力のもと論文を作成した。ここに記して謝意を表する。

【注釈】

*1) 圏域図示法：この方法は、対象地域を認知している被験者を対象とした場合に有効であり、自己の住居の周辺地区などの比較的限定された小地域の空間を対象とした研究に適している。認知の有無や広がりなどの量的な側面だけでなく、被験者の内部にある空間の切れ目を示してもらうことにより、間接的にその構造を探ろうとするものである。

*2) 構成要素：各認知領域の構成要素、点的要素、線的要素、面的要素、時間変動要素に分類する。構成要素間相互のまとまりを分析することは地域における認知領域の把握において重要である。

*3) 認知度：ある地区において、個人(サンプル)が認知する場所の和がその地区の回答者数占める割合。その場所における認知のレベルを示す値。[認知強度=(認知項目数/回答者数)×100]

【参考文献】

- 1) 太田光則(1996)「歴史的市街地における居住者の生活の様態にもとづく類型化について-都市の集住環境における細街路空間の実証的研究 その1-
- 2) 星 陽介(1997)「都市の歴史的市街地における集住環境の実証的研究-住民意識からとらえた生活領域の形成について-」日本大学修士学位論文
- 3) 井尻智(2000)「都市における近隣・生活領域の画像処理を用いた集合単位の研究」日本大学修士学位論文
- 4) 中央区沿革図集[月島編] 東京都中央区教育委員会